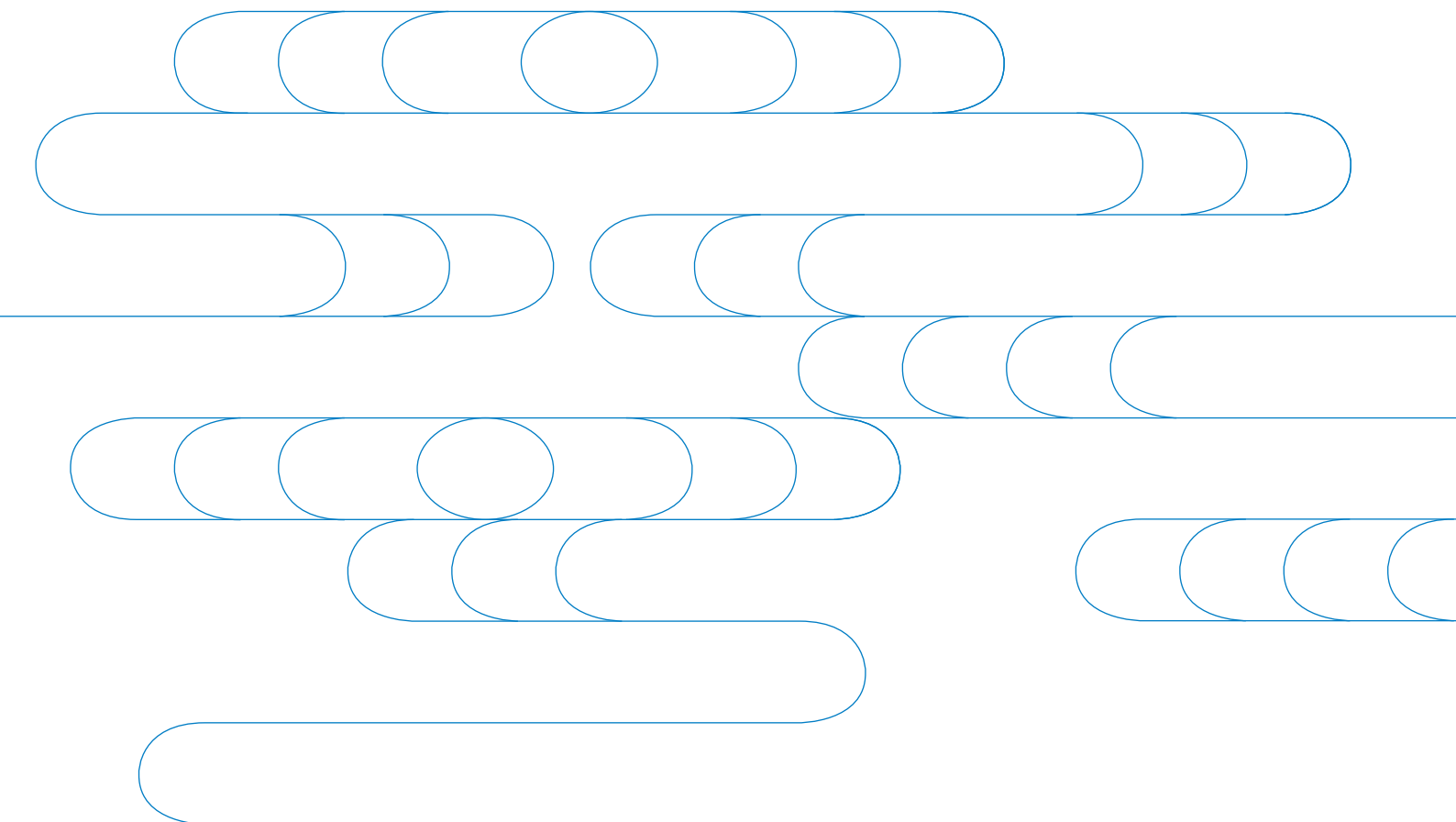


Clear Strategy, Steady Expansion

アニュアルレポート 2011



宝

たから：大切に保存する珍しい物

実り豊かな大地、ふりそそぐ太陽、恵みの雨—古来より日本人は、自然が育む田の恵みを、かけがえのない宝物として尊んできました。TaKaRaグループの社名「寶」の語源は、「田から」採取された穀物に由来するとされ*、農耕を生活の糧としてきた日本人の価値観と強く結び付いています。

TaKaRaグループは、日本伝統の酒造りの発酵技術と最先端のバイオ技術の革新を通じ、食生活や生活文化、ライフサイエンスにおける新たな可能性を探求してきました。今後も新たな価値を創出し、創業以来続く、自然を尊ぶ精神に根ざした製品およびサービスを提供し、社会に貢献してまいります。

*富山房「大言海」大槻文彦著



企業理念

自然との調和を大切に、発酵やバイオの技術を通じて
人間の健康的な暮らしと生き生きとした社会づくりに貢献します。

TaKaRaグループの歩み



昭和初期の木製看板



米国宝酒造(株)

1842年	創業
1897年	「寶」印の商標を登録
1925年	寶酒造株式会社(宝ホールディングス株式会社の前身) 創立
1949年	株式を上場
1979年	国産初の制限酵素を発売(バイオ事業を開始)
1982年	米国で清酒の現地製造を開始
1993年	長期経営構想「TI-21」スタート
2000年	長期経営構想「TE-100」スタート
2002年	持株会社体制へ移行 宝ホールディングス株式会社 設立
2004年	タカラバイオ株式会社 東証マザーズ上場
2006年	グループ内の事業を再編し宝ヘルスケア株式会社を設立
2011年	長期経営ビジョン「TaKaRa グループ・ビジョン2020」スタート 「TaKaRa グループ中期経営計画2013」スタート

掌手

つかさどる：役目として事にあたり、責任をもって遂行する

宝ホールディングスは、酒類・調味料事業を展開する宝酒造グループ、バイオ事業を展開するタカラバイオグループ、健康食品事業の成長を加速させる役割を担う宝ヘルスケアを傘下に置く純粋持株会社として、グループ全社の経営を調整・統括し、最大限の事業成果を追求しています。

この持株会社体制のもと、TaKaRaグループは、酒類・調味料事業を安定的な収益基盤とし、バイオ事業と健康食品事業という有望な将来性のある成長事業を有する、独自の強固な事業ポートフォリオを築いています。



事業構造



事業内容

宝酒造グループ

宝酒造グループは、創業以来続く酒類・調味料事業を展開するTaKaRaグループの中核事業です。160有余年の長きにわたり、確かな技術に裏付けられた安心できる商品を提供してきました。その商品カテゴリーは、焼酎、清酒、ソフトアルコール飲料、ワイン、ウイスキー、中国酒、調味料、原料用アルコールなど多岐にわたり、日本国内のみならず、米国、中国、欧州の子会社を通じて、グローバルに展開しています。



タカラバイオグループ

タカラバイオグループは、遺伝子治療などの革新的なバイオ技術の開発を通じて、人々の健康に貢献しています。技術および収益の基盤である「遺伝子工学研究事業」で安定的な収益を稼ぎ出し、「医食品バイオ事業」を第2の収益事業へ育成し、「遺伝子医療事業」に経営資源を投入して遺伝子治療・細胞医療の商業化を目指しています。



宝ヘルスケア

宝ヘルスケアは、TaKaRaグループの持つ独自素材や技術を活かした安心・安全な健康食品の販売を通じて、人々の健康で生き生きとした生活を応援しています。タカラバイオが開発した素材で製品開発を行い、マーケティング活動や通信販売を中心とする販売活動を行っています。この一連の取り組みを通じてTaKaRaグループのシナジーを追求し、健康食品事業の成長を加速させています。



醸

かもす：酒を造るように、時を経て事を用意する

TaKaRaグループは、長期的な企業価値の向上を目指し、長期経営構想とその実行計画である中期経営計画に基づくグループ経営を進め、着実に事業基盤を拡大してきました。

2011年4月からは、新たな長期経営ビジョン「TaKaRaグループ・ビジョン2020」と、その実行計画の第1ステップである「TaKaRaグループ中期経営計画2013」のもと、長期戦略に基づくグループ経営で、持続的成長を目指しています。



長期経営ビジョン—TaKaRaグループ・ビジョン2020

国内外の強みを活かせる市場で事業を伸ばし、
環境変化に強いバランスのとれた事業構造を確立する。

目次

06	連結財務ハイライト
08	セグメントハイライト
10	2011年3月期の主な活動
11	社長インタビュー
17	特集 Clear Strategy, Steady Expansion
24	CSR
26	コーポレート・ガバナンス
29	役員
30	事業概要
32	主要子会社データ
33	投資家情報

将来見通しに関する注意事項

この報告書に記載されている、当社および当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信等のうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、様々な要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

連結財務ハイライト

3月31日終了事業年度

財務トピックス

- 2011年3月期の連結売上高は、宝酒造グループ・タカラバイオグループともに減収となり、グループ全体でも減収となりました。
- 連結営業利益は、タカラバイオグループで過去最高益となりましたが、宝酒造グループの減益が響き、グループ全体では減益となりました。
- 当期純利益は、震災による特別損失を計上したことなどが影響し減益となりました。

期間項目	単位：百万円					単位：千米ドル
	2011	2010	2009	2008	2007	2011
売上高	¥189,769	¥190,525	¥192,790	¥191,878	¥198,535	\$2,286,373
宝酒造グループ	166,790	166,969	169,301	166,788	174,143	2,009,518
タカラバイオグループ	18,737	19,325	18,913	20,278	20,982	225,746
宝ヘルスケア	2,567	2,486	2,853	3,078	396	30,927
その他(連結消去含む)	1,673	1,743	1,722	1,733	3,013	20,156
売上原価	115,480	115,805	118,849	117,864	122,325	1,391,325
売上総利益	74,289	74,719	73,941	74,014	76,210	895,048
販売費及び一般管理費	65,953	66,146	65,090	65,507	68,550	794,614
営業利益	8,335	8,572	8,851	8,506	7,660	100,421
宝酒造グループ	6,568	7,129	7,465	7,177	6,568	79,132
タカラバイオグループ	1,097	553	426	560	(215)	13,216
宝ヘルスケア	(252)	(316)	(356)	(500)	(161)	(3,036)
その他(連結消去含む)	921	1,206	1,315	1,268	1,468	11,096
税金等調整前当期純利益	7,505	8,208	8,193	8,321	7,660	90,421
当期純利益	3,788	4,677	5,639	4,658	4,208	45,638
有形固定資産の減価償却費 及びその他の償却費	5,384	5,652	5,992	6,384	6,692	64,867
資本的支出	3,735	3,645	3,616	3,852	3,617	45,000
研究開発費	3,076	3,665	3,343	3,643	3,593	37,060
期末項目						
総資産	¥192,448	¥195,495	¥190,792	¥207,843	¥213,393	\$2,318,650
有利子負債	38,881	39,162	39,092	43,717	39,083	468,445
純資産	106,895	109,206	105,316	113,273	115,570	1,287,891
自己資本	94,308	96,666	93,093	99,969	102,507	1,136,240
1株当たり(単位：円)：						(単位：米ドル)
当期純利益	¥18.21	¥22.20	¥26.32	¥21.53	¥19.44	\$0.21
配当金	8.50	8.50	8.50	8.50	7.50	0.10
指標(単位：%)：						
総資産当期純利益率	2.0%	2.4%	2.8%	2.2%	2.0%	—
自己資本当期純利益率	4.0	4.9	5.8	4.6	4.1	—
自己資本比率	49.0	49.4	48.8	48.1	48.0	—
配当性向	46.7	38.3	32.3	39.5	38.6	—
株主還元性向*	58.6	60.6	79.0	—	—	—

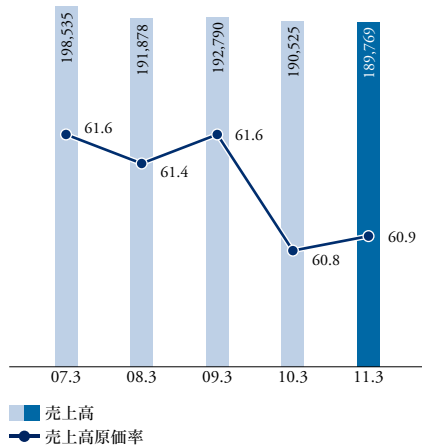
(注) 1. 百万円未満は切り捨てにより算出しております。

2. 米ドルは2011年3月31日現在のレートの近似値83円/ドルで便宜換算しております。

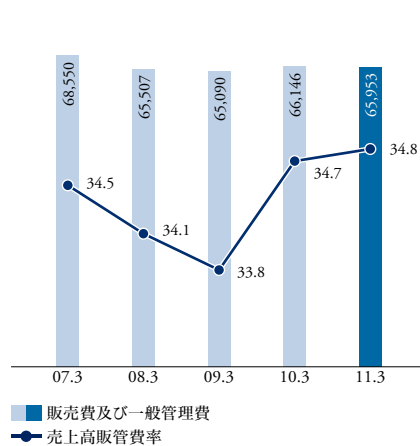
* 株主還元性向＝「株主還元総額(配当総額+自己株式取得総額)」÷「みなし連結当期純利益**」

** みなし連結当期純利益＝(連結経常利益-受取利息・配当金+支払利息)×(1-法定実効税率)

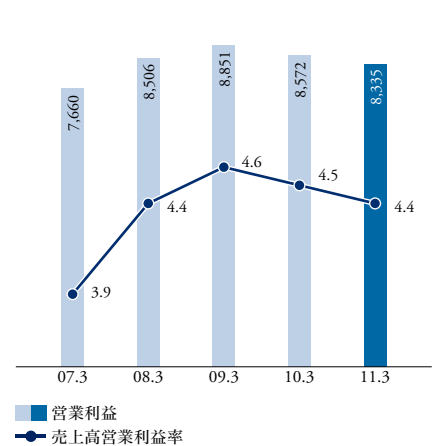
売上高・
売上高原価率
(百万円/%)



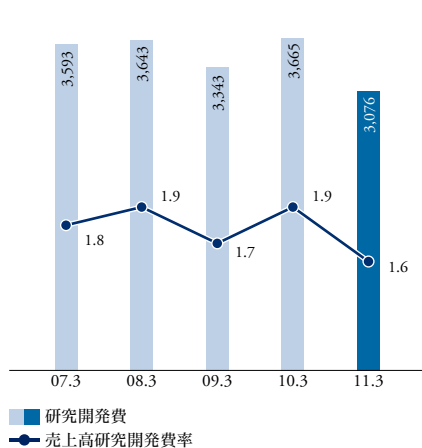
販売費及び一般管理費・
売上高販管费率
(百万円/%)



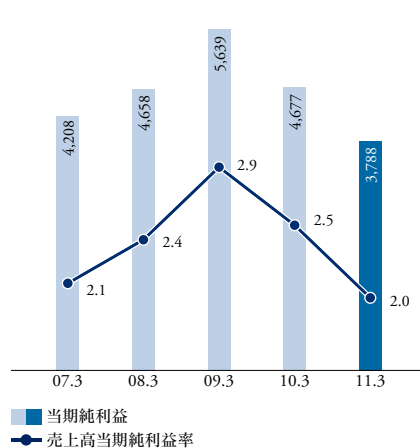
営業利益・
売上高営業利益率
(百万円/%)



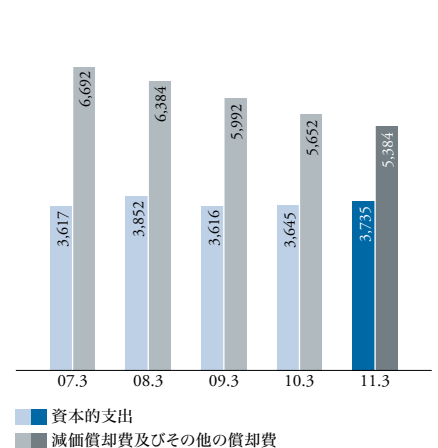
研究開発費・
売上高研究開発费率
(百万円/%)



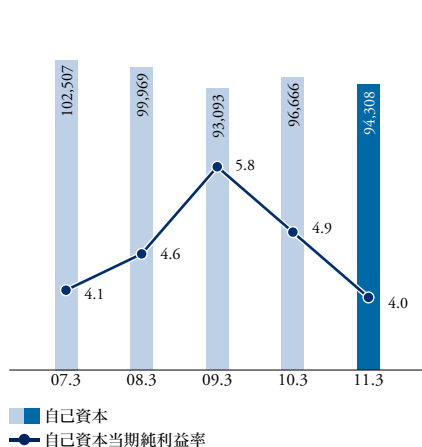
当期純利益・
売上高当期純利益率
(百万円/%)



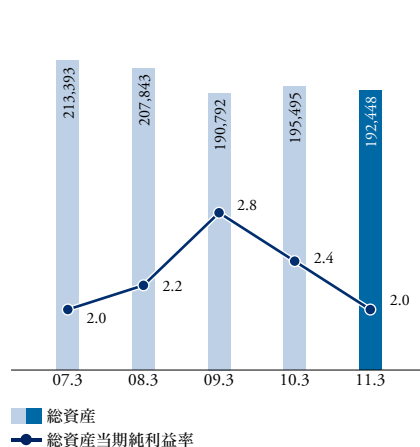
資本的支出・
減価償却費及びその他の償却費
(百万円)



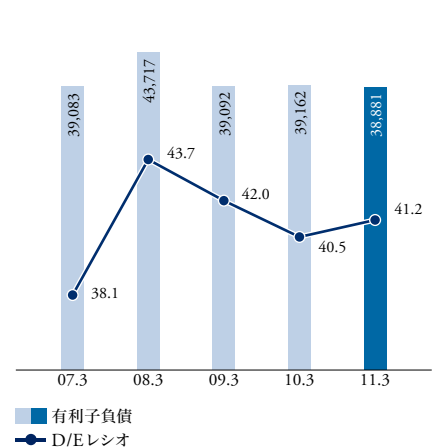
自己資本・
自己資本当期純利益率
(百万円/%)



総資産・
総資産当期純利益率
(百万円/%)



有利子負債・
D/Eレシオ
(百万円/%)



D/Eレシオ=有利子負債÷自己資本×100

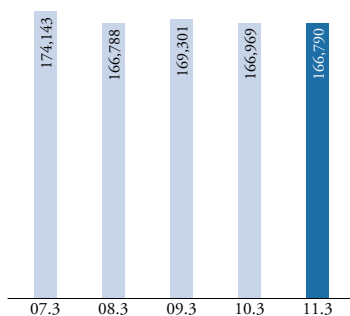
セグメントハイライト

- 宝酒造グループは、デフレの進行を受けた低価格商品への売上シフトや東日本大震災の影響などにより減収減益となりました。
- タカラバイオグループは、理化学機器の前期待需の反動減により減収となりましたが、営業利益では増益となり過去最高益をあげることができました。
- 宝ヘルスケアは、主力のフコイダン関連製品の売上増などにより増収となり、営業損失も改善しました。

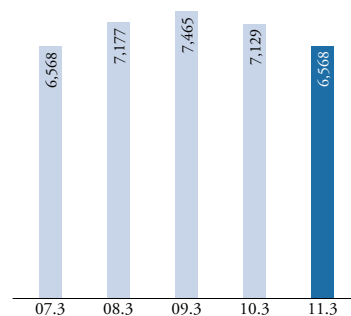
宝酒造グループ



売上高
(百万円)



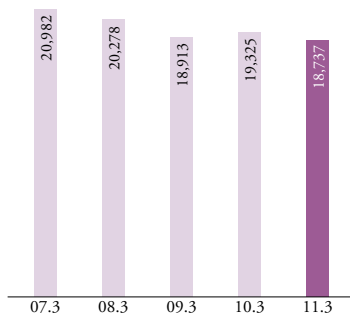
営業利益
(百万円)



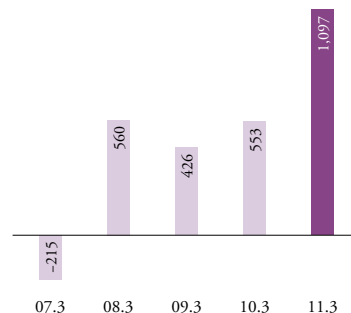
タカラバイオグループ



売上高
(百万円)



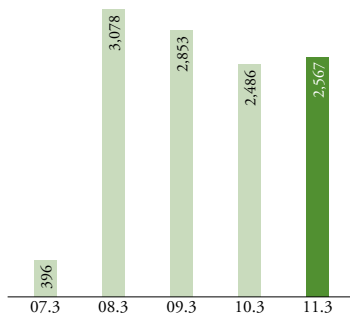
営業利益
(百万円)



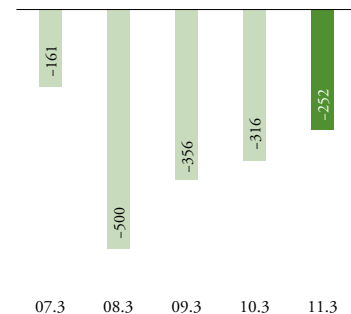
宝ヘルスケア



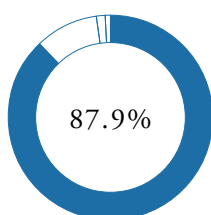
売上高
(百万円)



営業利益
(百万円)



売上構成比

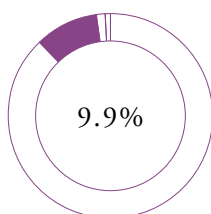


業績概況

当期の宝酒造グループは、「焼酎ハイボール」が好調だったソフトアルコール飲料、および料理清酒が好調だった調味料で増収となったことに加え、フーデックス社（仏国）の連結子会社化による増収があったものの、焼酎の減収の影響が大きく、売上高は前期比0.1%減収の166,790百万円となりました。

利益面では、原材料価格の高騰を受け、売上原価率が上昇したことに加え、商品構成変化による販売促進費の増加、フーデックス社の連結による人件費や管理費の増加などによって販売費及び一般管理費が増加したため、営業利益は前期比7.9%減益の6,568百万円となりました。

売上構成比

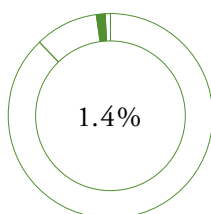


業績概況

当期のタカラバイオグループは、遺伝子医療事業におけるリンパ球培養用培地・バッグおよびがん免疫細胞療法に関する技術支援サービスの売上が好調に推移したことや、医食品バイオ事業における健康志向食品およびキノコ関連製品の増収があったものの、円高の影響、および遺伝子工学研究事業における理化学機器の前期特需の反動による減収によって、売上高は前期比3.0%減収の18,737百万円となりました。

利益面では、売上原価率の改善に加え、医食品バイオ分野における研究開発投資の効率化などによって研究開発費が減少したため、営業利益は前期比98.4%増益の1,097百万円となりました。

売上構成比



業績概況

当期の宝ヘルスケアは、最注力商品であるフコイダン関連製品、およびBtoBで販売しているバルク原料を中心に、健康食品の売上が増加し、売上高は前期比3.3%増収の2,567百万円となりました。

利益面では、利益率の高いフコイダン関連製品の売上が増加したことにより、売上総利益は前期比15.7%増益の819百万円となり、営業損失は前期に比べ64百万円収支改善の252百万円となりました。当セグメントでは、健康食品事業育成のための広告宣伝費を先行的に投下しているため、営業損失を計上しています。

(注) このページに掲載しているセグメント概況は、報告セグメントに関するものであります。報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、最高経営意思決定機関が経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっている「宝酒造グループ」、「タカラバイオグループ」、「宝ヘルスケア」の3つのセグメントで構成されています。なお、P6に掲載している「連結財務ハイライト」では、印刷事業などの機能会社グループの業績や、連結消去などをネットして「その他」に含めて記載しております。

2011年3月期の主な活動

宝ホールディングス

2010年5月	第10回、第11回の無担保社債（各50億円）を発行し、100億円を調達
2010年6月	250万株（約12億円）の自己株式を取得完了

宝酒造グループ

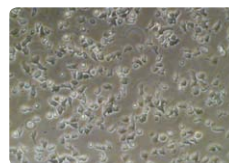
2010年4月	フランス最大規模の日本食材輸入卸会社フーデックス社の株式の80%を取得
2010年9月	松竹梅「白壁蔵」<生酛吟醸>を発売
2010年9月	石焼き芋焼酎「石茜」を発売
2011年3月	松竹梅「生」<冷用>を発売
2011年3月	本格焼酎「黒よかいち」<麦>を発売



本格焼酎「黒よかいち」<麦>

タカラバイオグループ

2010年5月	医聖会・百万遍クリニックにてがん免疫細胞療法の有償治療を開始
2010年8月	ドイツのマッハライ・ナーゲル社と核酸精製用試薬等の日本国内における独占的販売契約を締結
2010年8月	食道がんに対するTCR遺伝子治療の臨床研究において第1例目の治療を開始
2010年10月	白血病に対する遺伝子治療の臨床研究において第1例目に遺伝子導入細胞を投与
2010年11月	「腫瘍溶解性ウイルスHF10」事業を株式会社エムズサイエンスより買収
2010年12月	ナチュラルキラー細胞を高純度に作製できる新技術を開発
2010年12月	タカラコアバイオメディカル社に韓国テジョン支店を開設
2011年2月	株式の分割および単元株制度の採用を決定（1株を400株に分割、単元株100株）



ナチュラルキラー細胞

宝ヘルスケア

2010年10月	ガゴメ昆布「フコイダン」入り TaKaRa「安心のど飴」を発売
2010年11月	セリ科植物ボタンボウフウ由来の「イソサミジン」を配合したサプリメント「ノコギリヤシ+イソサミジン」を発売



「ノコギリヤシ+イソサミジン」

新しい10年間に向けて

TaKaRaグループは、今後10年間に見込まれる国内外の環境変化を見据えた長期経営ビジョン「TaKaRaグループ・ビジョン2020」を策定し、2011年4月より新たなスタートを切りました。

これまでも、長期経営構想と、その実行計画である中期経営計画に基づく事業展開で、今日のTaKaRaグループを特徴づける、酒類・調味料事業という安定収益基盤と、バイオ事業と健康食品事業という有望な将来性のある成長事業を併せ持つ、独自性の高い事業ポートフォリオを築き上げてきました。明確な長期戦略に基づく事業展開は、当社グループの基本方針です。

今後は、国内外において現在の事業ポートフォリオをさらに強化していくことで、より一層、環境変化に強いバランスのとれた事業構造の確立を目指していきます。



大宮 久

宝ホールディングス株式会社
代表取締役社長

東日本大震災について

2011年3月11日に発生いたしました東日本大震災により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。今回の震災に伴うTaKaRaグループ（以下、当社グループ）への影響について、以下の通りご報告いたします。

被害の状況について

幸いなことに、当社グループの従業員および家族等に人的被害はありませんでした。

また、各拠点の被害状況につきましては、営業拠点である宝酒造の東北支社（仙台市宮城野区）において、備品の落下・転倒等が発生しましたが、大きな被害はなく、通常業務に復旧しております。

生産拠点では、宝酒造の松戸工場（千葉県松戸市）において、生産施設の一部に損傷等の被害が発生しましたが、直ちに修復を行い、震災翌週から再稼働しており、現在は震災前の供給能力を回復しております。

物流拠点では、宝酒造の東日本物流センター（千葉県松戸市）において、商品の破損等が発生したほか、自動倉庫の一部に損傷等の被害が発生し、別の物流拠点から配送を行うなどの対応を行ったため、一部商品の配送に遅れが生じるなどの影響がありました。

業績への影響について

生産・物流拠点の一部施設における被災等に伴い、2011年3月期の決算において、災害による特別損失3億96百万円を計上いたしました。その内訳は、設備復旧費用として1億88百万円、棚卸資産評価減等として1億89百万円などです。

2012年3月期においては、生産・供給体制への影響は軽微なものであると考えておりますが、震災復旧費用関連で6億円程度の特別損失を2012年3月期予想（2011年5月10日発表）に織り込んでおります。

節電への対応について

宝酒造グループの東日本における主力工場である松戸工場では、自家発電機の導入や、電力使用量のピークを夜間にずらすなどの節電策を実施する予定であります。また、その他の拠点についても、今後、自家発電機の導入の是非について検討を進めてまいります。

Q1 2011年3月期（以下、当期）の業績についてご自身の評価をお聞かせください。また、第7次中期経営計画（以下、第7次中計）の最終年度となりましたが、その評価も併せてお願いします。

A1 当期はデフレの進行に加え震災の影響もあり、減収減益となりました。第7次中計は未達となりましたが、将来の成長に向けた布石を打つことができました。

当期の当社グループの連結業績は、長引く景気の低迷やデフレの進行に加え、2011年3月に発生した東日本大震災の影響もあり、売上高は前期比0.4%減収の1,897億69百万円となりました。連結営業利益は、タカラバイオグループが過去最高を記録したものの、宝酒造グループにおける低価格商品への売上シフトなどの影響により、前期比2.8%減益の83億35百万円となりました。当期純利益は、震災による特別損失の計上もあり、前期比19.0%減益の37億88百万円となりました。

事業グループ別に見ますと、宝酒造グループでは、「焼酎ハイボール」の増収や、日本食材卸会社であるフーデックス社（仏国）が新規に連結対象となったことによる増収要因がありましたが、デフレの進行で消費マインドの後退や低価格商品へのシフトが顕著になるなど厳しい事業環境が続き、さらに東日本大震災の影響もあり、減収減益となりました。

タカラバイオグループにおいては、キノコ関連製品が増収となりましたが、研究用試薬が円高の影響によって前期並みとなり、また理化学機器が前期の特需の反動によって減収となったため、売上高は減収となりました。一方、研究開発費の効率的な運用などに努め、販売費及び一般管理費を抑制し、営業利益では過去最高益を達成しました。

宝ヘルスケアは、注力商品であるフコイダンシリーズの好調な売上により前期比3.3%の増収となり営業損失も改善しました。

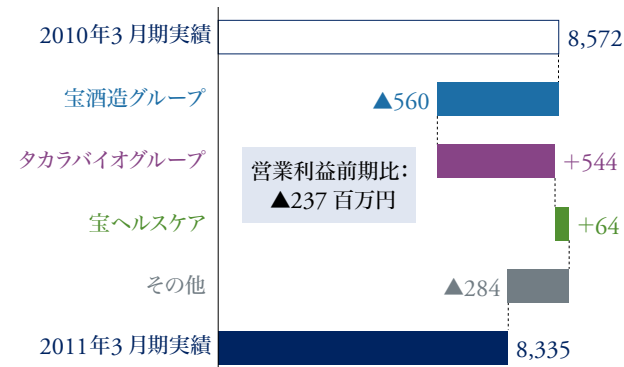
当期の業績は、第7次中計の定量目標や当期の業績予想に対して下回る結果となりました。特に第7次中計スタート後に発生したリーマン・ショックに端を発する経済危機は市場に大きな変化をもたらし、その後も景気低迷の長期化や、デフレの進行など、高品質商品の育成を図る宝酒造グループにとっては特に厳しい市場環境となり、グループ全体でも計画の達成には至りませんでした。しかしながら、海外での日本食材卸事業への参入など、将来の成長に向けた布石を打てたことには大きな意義があると考えています。

2011年3月期業績の増減要因

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



Q2 2011年4月に発表された「TaKaRaグループ中期経営計画2013(以下、中計2013)」のねらいをお聞かせください。

A2 10カ年の長期経営ビジョンの第1ステップとして位置付け、環境変化に強いバランスの取れた事業構造の確立に向けた施策を展開していきます。

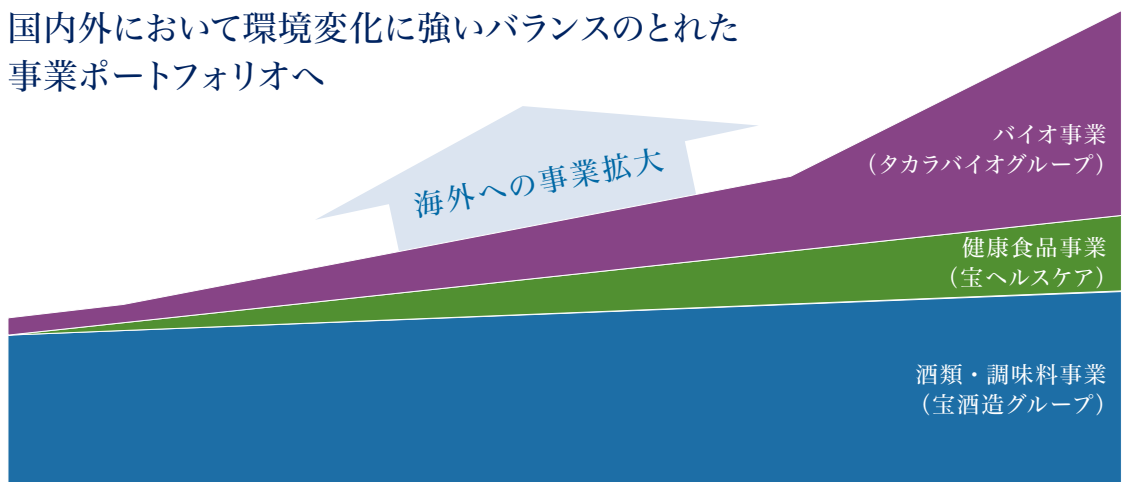
2011年4月よりスタートした長期経営ビジョン「TaKaRaグループ・ビジョン2020」(以下、長期ビジョン)は、2011年3月に最終年度を終えた長期経営構想「TE-100」を引き継ぐもので、2020年までの10年間の環境変化を見据えた当社グループの成長の道筋を示しています。そして中計2013は、その実行計画の第1ステップとして位置付けています。

持続的な成長を果たしていくために、当社グループはいくつもの挑戦を続けていく必要があります。中長期的な環境認識として、国内の事業環境は厳しさを増すものの、海外を中心に成長機会も数多く存在すると考えています。国内では人口減少や産業の空洞化が進むことにより消費市場が縮小していくと予想されますが、高齢者向け市場や調理済み食品市場については拡大が見込まれます。一方、海外では、先進国における健康志向の高まりや医療の高度化、新興国における経済成長や所得水準の向上に伴い、日本食市場やバイオ関連市場の拡大が見込まれます。

こうした環境の変化を前提に、長期ビジョンでは、国内外の強みを活かせる市場で事業を伸ばし、環境変化に強いバランスの取れた事業構造を確立することを経営目標として定めました。この目標の達成に向け、中計2013では、国内での安定成長を実現するとともに、海外で大きく成長するための事業基盤を拡大することを基本方針としています。(業績目標や個別の施策については、特集ページをご覧ください。)

持続的な成長を果たしていく上で、海外には特に大きな成長機会が存在しています。中計2013では、当社グループとして初めて海外売上高比率の目標数値10%以上を掲げ、海外市場に挑む意思を明確に盛り込んでいます。宝酒造グループでは、日本食材卸事業という新たな領域において販売網の拡大に取り組み、タカラバイオグループでは、インドなどの新興国において研究用試薬を中心に売上拡大に取り組みなど、海外市場のさらなる開拓を進めていく考えです。

国内外において環境変化に強いバランスのとれた事業ポートフォリオへ



Q3 TaKaRaグループの特徴に、10年先を見据えた長期的な経営ビジョンが挙げられますが、こうした経営方針を可能とする強みをお聞かせください。

A3 安定的な収益を背景に長期的な視点で意思決定を行い、確固たる意志で実行する。これが当社グループの強みであると考えています。

酒類・調味料事業を母体とする当社グループは、自社の強みを活かせる領域で、かつ、競合がしり込みするようなテーマへ息の長い挑戦を続け、現在の独自性を築いてきました。長期的な視点に立った意思決定は、当社グループの発展を支えてきた基盤であり、企業風土と言えるものです。

私が創業から携わったバイオ事業は、タカラバイオグループとして2008年3月期に黒字化を果たすまで、長きにわたって先行投資を続けた事業です。こうした息の長い投資は、安定的な収益基盤と確固たる意志を持っているからこそ可能であり、これが当社グループの強みであると考えています。

宝酒造グループの事業基盤は、焼酎やみりんのカテゴリーで国内シェア1位の地位を確保する強いブランドを多数有していることだけではありません。焼酎のイメージを一新した宝焼酎「純」や、日本初の缶入りチューハイ「タカラ can チューハイ」など、時代とニーズを捉えた商品を投入し、顧客を引き付ける力にあると認識しています。

タカラバイオグループにおいても、1979年に国産初の制限酵素を発売して以降、常に最先端のバイオテクノロジー研究に対応する研究用試薬や理化学機器などを備え、競争の激しいバイオ業界において、確固たる足場を築くことに成功しました。今後は、医食品バイオ事業の黒字化により、さらなる収益基盤の拡充が見込まれます。

こうした事業から得られる安定的な利益が、次の成長を担う事業を育成するための資金となり、長期的な視野に立った意思決定を可能にしています。したがって、基盤事業のさらなる強化は、今後も長期戦略を展開する上で欠かせない重要テーマです。中計2013においても、こうした認識のもと、基盤事業のさらなる拡大を前提としています。

育成を続けている健康食品事業および遺伝子医療事業は、ようやく収益への貢献を計画に乗せられるようになりました。今後も、各事業グループの独立採算を基本に、それぞれの事業計画を推進し、長期ビジョンの達成に向けたグループ経営を進めていきます。



Q4 新中計の初年度となる2012年3月期の見通しおよび株主還元策をお聞かせください。

A4 2012年3月期は増収増益を果たし、長期ビジョンおよび中計2013の初年度として良いスタートを切りたいと考えています。

宝酒造グループでは、厳しい事業環境が続きますが、当社グループの収益基盤として国内酒類事業の収益力をより一層高め、その上で、海外酒類事業、日本食材卸事業および調味料・酒精事業で積極的に事業拡大を図ります。震災の影響もあり、国内では当社商品群の中でも家庭用商品への需要が高まっていることから、2012年3月期の当事業グループの業績は「焼酎ハイボール」などのソフトアルコール飲料を中心に大幅な増収を見込んでいます。また、原材料価格の高騰に対しては継続的なコストダウンを実施します。しかしながら、家庭用商品の増加に伴い販売促進費等が増加するため、営業利益は当期並みとなる見込みです。

タカラバイオグループでは、研究用試薬やキノコ関連製品を中心に増収を見込みます。売上増に伴う増益は見込めるものの、研究開発費や管理費等の増加も想定しており、営業利益は当期並みの水準となる見通しです。

宝ヘルスケアでは、茶飲料の減少により若干の減収を見込みますが、利益率の高いフコイダン関連製品の売上増などから営業損失の大幅な改善を見込み、2013年3月期の黒字化へ向けて前進させます。

これらにより、2012年3月期の当社グループの連結業績見通しは、売上高1,973億円（前期比4.0%増）、営業利益84億円（同0.8%増）、経常利益87億円（同3.2%増）、当期純利益40億円（同5.6%増）と増収増益を見込みます。

最後に、株主還元策につきましては、引き続き、安定的な配当の継続を基本としつつ業績連動の要素も加味した配当と、資本効率の向上に資する自己株式の取得とを併せて実施します。2012年3月期の業績見通しを前提に、次期の配当は引き続き1株当たり8円50銭を予定していますが、併せて自己株式の取得を通じて、積極的な株主還元を努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りたく、よろしくごお願い申し上げます。

2011年7月

代表取締役社長

大宮久

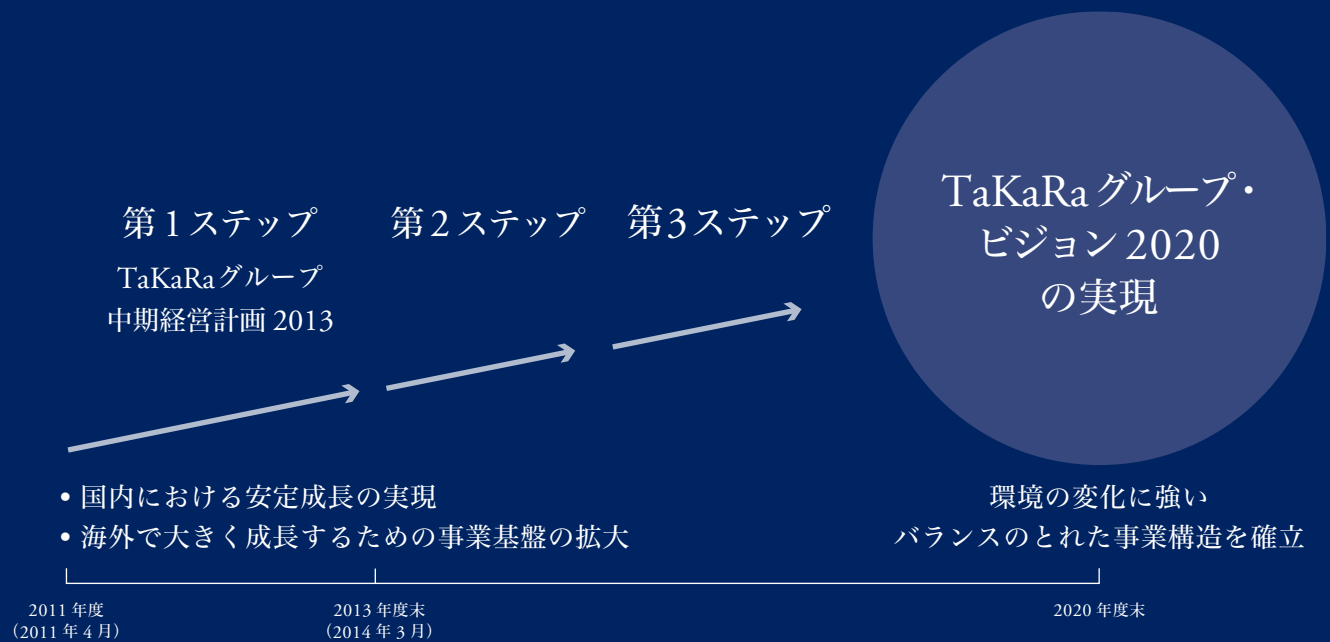


Clear Strategy, Steady Expansion

TaKaRaグループは、2011年4月より、10カ年の長期経営ビジョン「TaKaRaグループ・ビジョン2020」の実現に向け、新たなスタートを切りました。

この特集では、その実行計画の第1ステップとして策定した「TaKaRaグループ中期経営計画2013」をご紹介します。

「TaKaRaグループ・ビジョン2020」達成へのロードマップ



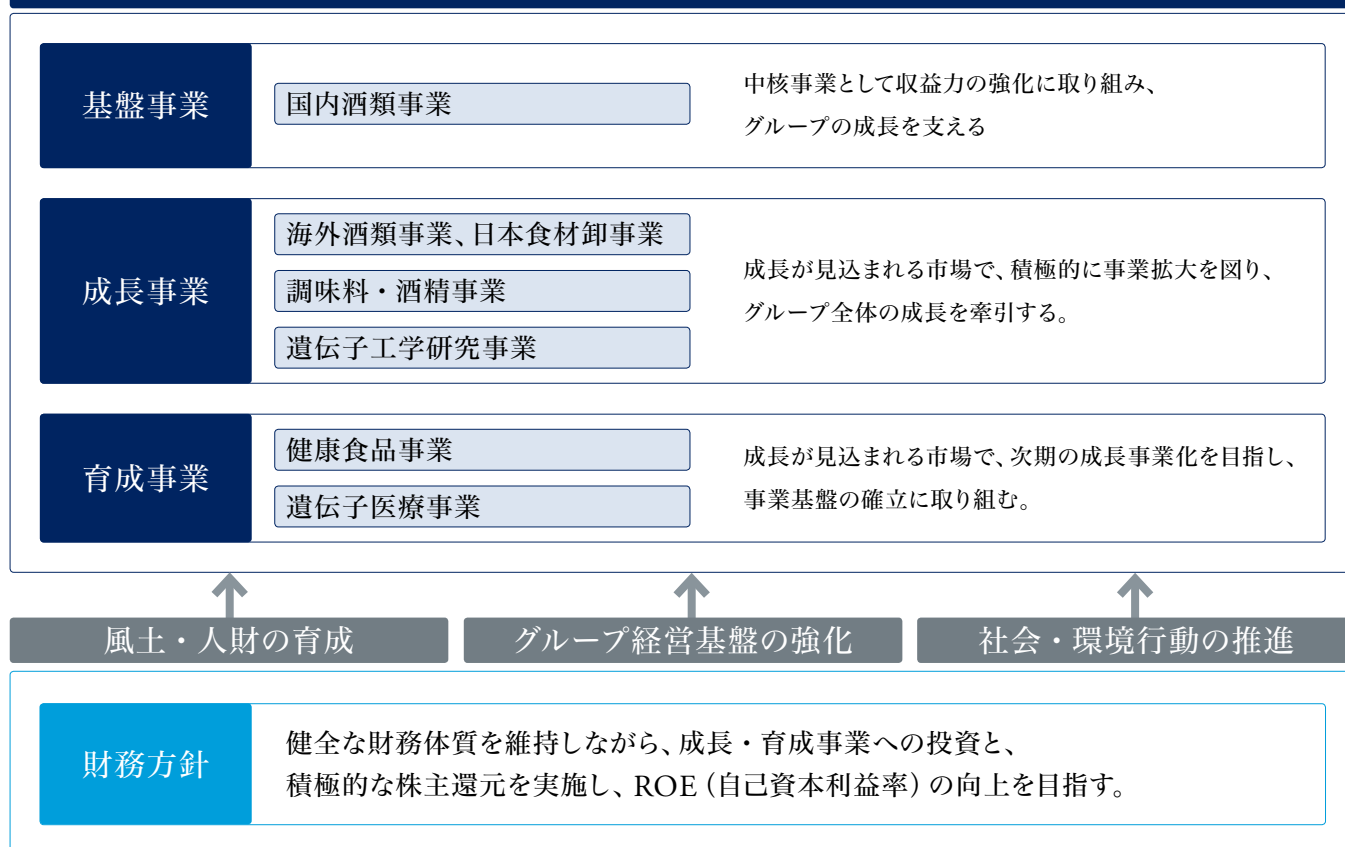
TaKaRaグループ中期経営計画2013の概要

2020年までの長期経営ビジョン「TaKaRaグループ・ビジョン2020」では、国内外の強みを活かせる市場で事業を伸ばし、環境変化に強いバランスのとれた事業構造を確立することを経営目標に掲げています。この目標の実現に向けた第1ステップとして策定した中計2013では、『国内における安定成長の実現』と『海外で大きく成長するための事業基盤の拡大』を目指しています。

基本方針

「TaKaRaグループ・ビジョン2020」の実現に向けて、国内での安定成長を実現するとともに、海外で大きく成長するための事業基盤を拡大する。

事業の位置付けと事業方針



定量目標

連結売上高

2,000億円以上
(2011年3月期対比5.4%増)

海外売上高

200億円以上
(2011年3月期対比35.9%増)

成長事業および育成事業の売上高

500億円以上
(2011年3月期対比25.3%増)

連結営業利益

100億円以上
(2011年3月期対比20.0%増)

海外売上高比率

10%以上
(2011年3月期対比+2.2%)

成長事業および育成事業の売上高比率

25%以上
(2011年3月期対比+4.0%)

■事業の位置付けと事業方針

基本方針の実現に向け、グループ内の各事業を「基盤事業」「成長事業」「育成事業」の3つのカテゴリーに分け、事業方針を策定しました。それぞれの方針に基づいて各事業を推進することで、グループの成長戦略を実行していきます。各事業の方針は、以下の通りです。

●基盤事業

国内酒類事業

安定的なキャッシュ・フローを生み出し、グループの成長を支える。

●成長事業

海外酒類事業、日本食材卸事業

海外で日本食材卸販売網を構築するとともに、両事業のシナジーを活かして事業成長を加速させ、グループ全体の成長を牽引する。

調味料・酒精事業

加工業務用調味料事業と酒精事業のそれぞれにおいて事業拡大を図るとともに、事業統合を活かしたBtoB事業の成長を図る。

遺伝子工学研究事業

基盤技術開発と新興国をはじめとした国内外の市場開拓を進め、売上拡大と収益力強化を図る。

●育成事業

健康食品事業

将来の飛躍的な成長に向け、売上拡大および事業基盤の確立を図る。

遺伝子医療事業

国内初の体外遺伝子治療の商業化を目指し、臨床開発を進めるとともに、がん免疫細胞療法の技術支援サービス等の売上拡大を目指す。

■財務方針

健全な財務体質を維持しながら、成長・育成事業への投資と、積極的な株主還元を実施し、ROE（自己資本利益率）の向上を目指します。

資源配分

成長事業と育成事業へ資源を優先配分し、成長を加速させる。

株主還元

配当と自己株式取得を合わせ、株主還元性向*50%以上を実施する。

資本効率

利益成長および株主還元を通じ、ROE（自己資本利益率）の向上を目指す。

* 株主還元性向＝「株主還元総額（配当総額＋自己株式取得総額）」÷「みなし連結当期純利益**」

** みなし連結当期純利益＝（連結経常利益－受取利息・配当金＋支払利息）×（1－法定実効税率）

●グループ経営基盤の強化

「グループ総合力」「コスト競争力」「技術・商品開発」「IT基盤」の4つの強化により、事業戦略を支える。

●風土・人財の育成

グループの成長に不可欠なグローバル人財、専門人財、技術者を育成するとともに、事業展開に応じたグループ間の人財交流を行い、人財配置の最適化を進める。

●社会・環境行動の推進

事業活動を通じて、CSR活動や環境活動に取り組み、ステークホルダーに対する責任を果たす。

宝酒造グループ

定量目標

売上高

営業利益

海外売上高

1,800億円 77億円 115億円

基本方針

国内は、酒類事業の収益力強化およびBtoB事業の拡大、
海外は、日本食材卸販売網の構築に取り組む。

■国内酒類事業の戦略

「基盤事業」に位置付ける国内酒類事業では、引き続き全量芋焼酎「一刻者」、本格麦焼酎「知心剣」、松竹梅「白壁蔵」ブランドに代表されるこだわりゾーンと、甲類焼酎・極上<宝焼酎>、本格焼酎「黒よかいち」、焼酎ハイボール、松竹梅「豪快」などのスタンダードゾーンの双方において、多数の強いブランドを育成していきます。

さらに今後は、差別化品質を持ったオリジナリティある新商品についても開発スピードを上げ、売上の拡大と新たな需要層の獲得を目指します。同時に、利益マネジメントの強化と業務の効率化を推進することで、安定的なキャッシュ・フローを生み出すグループの中核事業として、グループ全体の成長を支えていきます。

【事業戦略の見取り図】

新商品の開発

差別化品質を持ったオリジナリティある
新商品の開発

- 新商品の開発スピードを上げ、売上を拡大
(3年間で新商品の売上高90億円を目指す)
- 消費行動の変化に対応し、新たな需要層を獲得



ブランドの育成

こだわりゾーンとスタンダードゾーンの双方で
多数の強いブランドを育成

<こだわりゾーン>

- 全量芋焼酎「一刻者」、本格麦焼酎「知心剣」
- 松竹梅「白壁蔵」<生酏>シリーズ

<スタンダードゾーン>

- 極上<宝焼酎>
- 本格焼酎「黒よかいち」
- 焼酎ハイボール
- 松竹梅「豪快」、生酒
- 料理清酒



収益力の強化

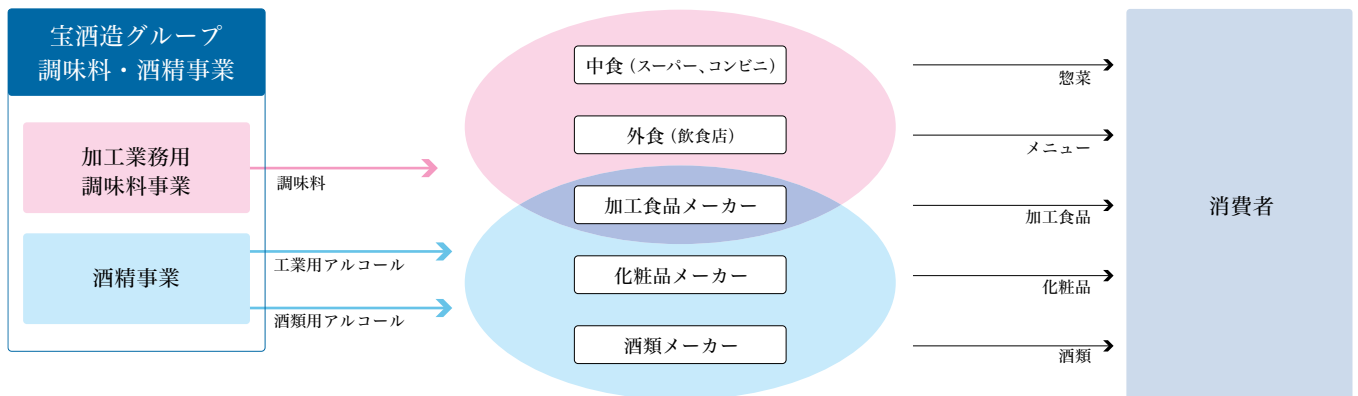
利益マネジメントの強化と、
業務効率化の推進

■調味料・酒精事業の戦略

「成長事業」に位置付ける調味料・酒精事業では、両事業の相乗効果を活かし、両方の事業に共通する顧客への提案力を強化するとともに、BtoBビジネスとして将来の事業の柱となるよう拡大を目指します。そのための準備として、まずは加工業務用調味料と酒精それぞれの分野での売上拡大を目指します。

加工業務用調味料事業では、顧客視点に立った商品開発と提案営業で顧客の課題解決に貢献することを通じ、さらなる事業拡大を図ります。酒精事業では、新規事業領域における成長戦略と、既存事業における量的拡大や競争優位性確立などの強化戦略を同時並行で推進します。

【加工業務用調味料事業および酒精事業の顧客】



■海外酒類事業・日本食材卸事業の戦略

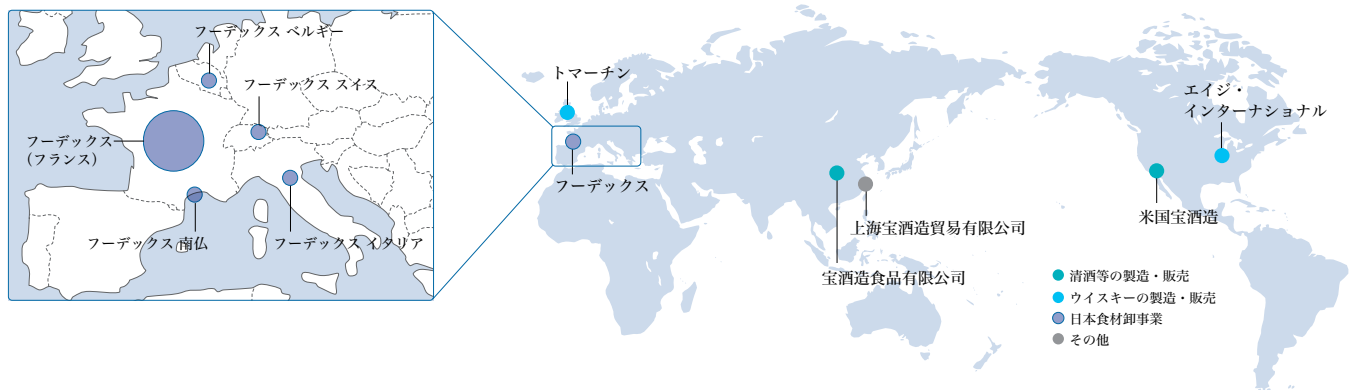
「成長事業」に位置付ける海外酒類事業では、米国・欧州・中国を中心に、日本食レストラン市場におけるシェアの向上を図るとともに、量販チャンネルにおける間口の拡大を図ります。

同じく「成長事業」に位置付ける日本食材卸事業では、2010年4月に株式を取得したフーデックス社(仏国)が2011年3月にベルギーに子会社を設立するなど流通網の拡大に取り組んでいますが、今後も海外における販売網の構築と拡大を目指します。

さらに、海外酒類事業と日本食材卸事業の両事業のシナジーとして、日本の酒類と食材を組み合わせた提案を行うことができるという強みを活かし、日本食文化をさらに世界に広めるとともに、海外の飲食店市場における新たな販路の獲得と間口の拡大に取り組めます。

【宝酒造グループの海外拠点】

フーデックス社の欧州拠点



タカラバイオグループ

定量目標

売上高

227億円

営業利益

13億円

海外売上高

85億円

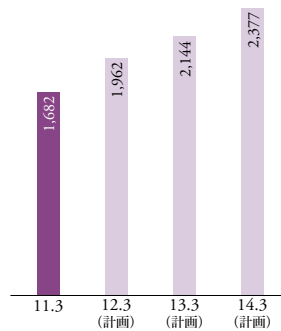
基本方針

継続的に黒字を計上する一方で、経営資源投下について選択と集中を図り事業構造の改革を進め、成長基盤の構築を目指す。

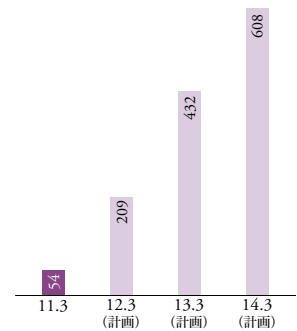
■ 遺伝子工学研究事業の戦略

タカラバイオグループの収益基盤であり、TaKaRaグループの中では一層成長が期待できる事業として「成長事業」に位置付ける遺伝子工学研究事業では、研究開発の生産性を向上させ、基盤技術の開発を推進するとともに、リアルタイムPCR分野や細胞生物学分野等で売上の拡大を目指します。また、マーケティング力を強化することでアジア・パシフィック等、国内外市場の積極的な開拓を進めていきます。

【中国での売上高】
(百万円)



【インドでの売上高】
(百万円)



■ 医食品バイオ事業の戦略

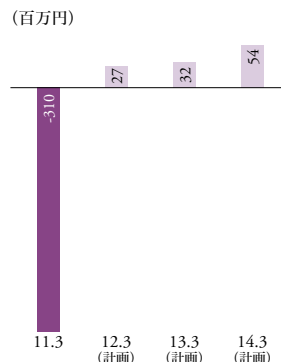
TaKaRaグループの「育成事業」に位置付ける健康食品事業とキノコ事業を行う医食品バイオ事業では、ガゴメ昆布「フコイダン」や寒天「アガロオリゴ糖」などの健康食品素材のエビデンスを強化し、効果的かつ効率的に費用を投下しながら、宝ヘルスケア社を通じ

た通信販売顧客の獲得やBtoB市場での販促強化を通じた売上の拡大を目指します。また、ハタケシメジとホンシメジの生産技術向上によるコストダウンと自社販売による売上拡大を目指します。その上で、2012年3月期の営業黒字化を目指します。

【医食品バイオ事業の方針】

- 2012年3月期の営業黒字化
- 機能性食品素材のヒト試験によるエビデンス強化
- 健康食品素材のBtoB市場での売上拡大
- キノコの生産技術向上によるコストダウン
- キノコ栽培技術・ノウハウのライセンス事業の拡大
- 高付加価値キノコの新規栽培法の確立

【営業利益計画】



■ 遺伝子医療事業の戦略

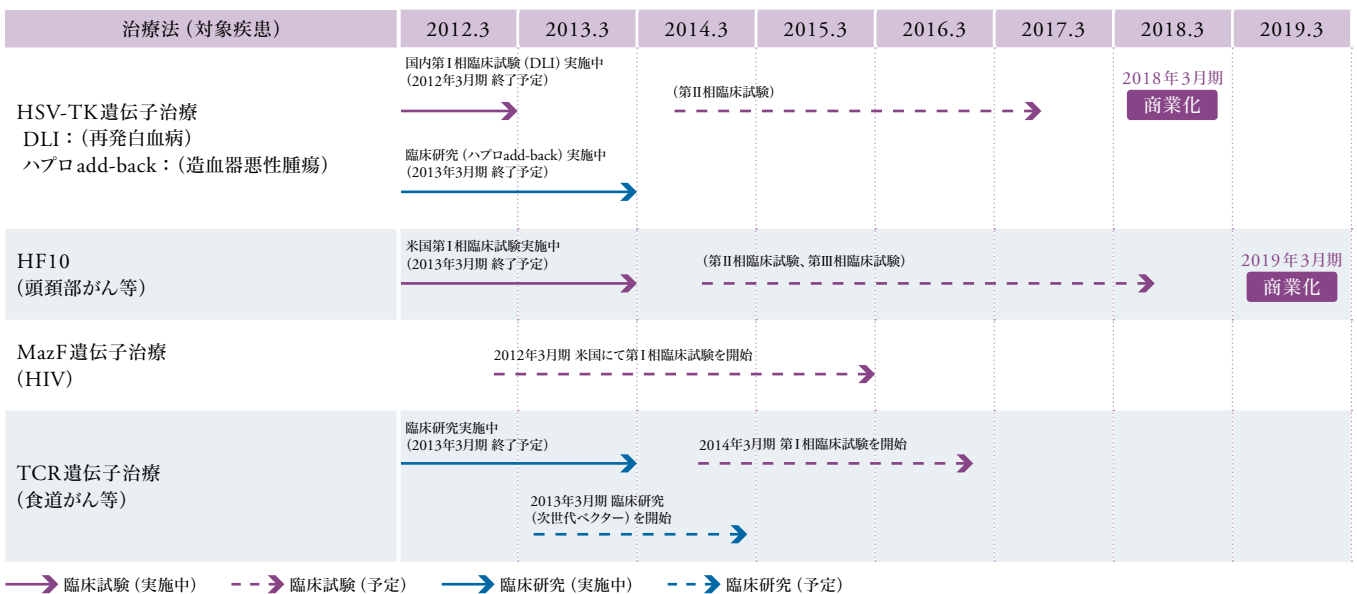
「育成事業」に位置付ける遺伝子医療事業では、国内初の体外遺伝子治療の商業化を目指し、遺伝子治療・細胞医療の臨床開発を推し進めます。

遺伝子治療では、HSV-TK遺伝子治療の2018年3月期の商業化、2010年に買収したパイプラインのがん治療薬HF10の2019年3月期の商業化を目標に、臨床試験を進めていきます。さらに、

MazF遺伝子治療、TCR遺伝子治療の臨床開発を積極的に推進します。

細胞医療では、「レトロネクチン®誘導Tリンパ球療法」にかかる技術支援サービスや、がん免疫細胞療法用の培地・バッグの売上拡大を目指します。また、遺伝子治療用ベクターの製造などの臨床開発支援事業の拡大に向けた取り組みにも注力します。

【遺伝子医療の臨床開発スケジュール】



宝ヘルスケア

定量目標

売上高

基本方針

26億円

ガゴメ昆布「フコイダン」をヘルスケア事業の柱として確立し、2013年3月期に黒字化を実現する。

■ 事業戦略

TaKaRaグループの「育成事業」に位置付ける健康食品事業において、販売を担う宝ヘルスケアでは、ガゴメ昆布「フコイダン」シリーズに最注力しながら、積極的かつ効率的な広告宣伝を通じて顧客

の獲得に努め、通販事業の成長を加速させていきます。そして、2013年3月期の黒字化を目指します。

CSR

TaKaRaグループは、安心・安全な商品やサービスをお届けするとともに、医療の進歩に貢献し、人々の暮らしを豊かなものにしていくことで、様々なステークホルダーの期待に応えていきます。

CSR活動の基本方針

TaKaRaグループは、社会の一員として企業理念に則り、本業の事業活動を通じて社会に貢献していくことをすべての基本としています。国内外を問わず様々な環境変化が予想されるなか、グループ全体の企業価値向上を実現していくためには、成長戦略と一体化したCSR活動の強化が不可欠であると考えています。

こうした認識のもと、「TaKaRaグループ中期経営計画2013」では、国内外のグループ会社一体となったコンプライアンス体制の構築に加え、生物多様性保全の推進、CO₂排出量削減などの環境活動の強化、グループ全体の成長に不可欠な風土・人財の育成など、CSR活動をグループ全体でより一層強化していくことを定めました。

CSR活動の重点分野

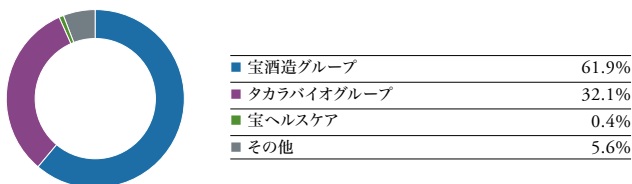
TaKaRaグループは、安心・安全な商品やサービスを提供し続けることが最も重要なCSR活動であると考えています。こうした商品やサービスを通じて、人々の暮らしを豊かなものにするとともに、環境保全などを通じて社会に貢献しながら、グループの持続可能な成長の実現を図っています。

TaKaRaグループのCSR活動

主要なCSR活動は、グループ全体の売上の約90%を占める宝酒造グループの取り組みが中心となっています。宝酒造グループの主要事業である酒造りは、穀物や水など自然の恵みをもとに、微生物という自然の働きによって行われます。酒造りは、こうした自然の力を借りて初めて行うことができるため、「自然との調和」を第一に掲げ、自然環境に配慮した活動を展開しています。加えて、酒類を販売する企業にとって避けて通れない空容器問題や、適正飲酒の啓発活動もまた、CSR活動の重要課題であると認識しています。

一方で、タカラバイオグループは、売上こそグループ全体の約10%ですが、従業員数ではグループ全体の約30%に達するとともに、研究開発費ではグループ全体の約90%を占めています。タカラバイオグループは、革新的なバイオ技術を通じ、がん領域やAIDSといったアンメット・メディカルニーズの高い疾病を対象とした遺伝子治療や細胞医療という先端医療技術の開発や商業化を進めています。近い将来、タカラバイオグループの事業は人々の生命や健康に大きく貢献し得ることから、生命倫理の観点からも適正に推進していくことが、これまで以上に重要になると認識しています。

従業員構成



研究開発費構成



CSR活動の重点分野における取り組み

品質と安全：品質検査（宝酒造）

宝酒造は、食の安心・安全に対するニーズに応えるため、確かな品質管理体制のもと、商品企画から製造・出荷に至るまでを実施しています。さらに、お客様に正確な情報をお伝えするため、事前審査のうえ、原材料・栄養成分などをラベルに表示しています。



品質と安全：誤飲防止（宝酒造）

宝酒造は、目の不自由な方の誤認飲酒を防止するため、1995年に国内で初めて缶チューハイの缶ぶたに点字で「おさけ」の表示を入れ、2002年には、やはり国内で初めて紙パック酒類のキャップに同様の点字表示を行いました。



品質と安全：適正飲酒（宝酒造）

宝酒造は、酒類を販売する企業の重要な社会的責任として、「ルールを守った節度ある飲酒」を呼びかける様々な活動を行っています。お酒の正しい知識や飲み方をまとめた冊子「お酒おつきあい読本」を発行しているほか、1995年からは未成年者飲酒、飲酒運転防止のための注意表示を酒類製品に表示しています。



生命倫理と安全：倫理面・安全面の審査（タカラバイオ）

タカラバイオでは、ヒト由来の組織・細胞・臨床材料・ゲノム・遺伝子等を用いた研究開発事業、これらを用いた遺伝子検査・受託業務に関する事業およびヒト組織・細胞製品の供給に関する事業等を行っています。これらの事業活動を行ううえで、関連法規の遵守はもとより、人権の尊重ならびに当該事業活動を通じた社会貢献が適切に行われることが重要であると認識し、「生命倫理・安全規程」を定め、社内に設置した生命倫理委員会の審査を厳格に行っています。

環境保全：4Rの推進（宝酒造）

酒類業界にとって、酒類などが消費された後に発生する空容器処理は重要な問題です。宝酒造では、新たな容器の発生を回避する「はかり売り」を実施するなど、容器の4R（リフューズ：発生回避、リデュース：減量化、リユース：再利用、リサイクル：再資源化）を推進しています。



社会貢献：環境啓発活動（宝ホールディングス・宝酒造）

宝ホールディングスでは、公益信託「TaKaRaハーモニストファン」を1985年に設立し、以降毎年、自然環境保護活動や研究に地道に取り組む団体や個人に対して助成活動を行っています。第1回からの助成先数は延べ281件、助成金累計は約1億3,500万円になりました。また、宝酒造では、2004年から、次世代を担う子供たちに自然の尊さや生物多様性の大切さを伝える「TaKaRa田んぼの学校」を開校し、環境教育を実施しています。



宝酒造におけるCSR活動は、以下のホームページおよび「緑字企業報告書」でご確認いただけます。

<http://www.takarashuzo.co.jp/environment/index.htm>

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

当社グループでは、コーポレート・ガバナンスの充実を、持続的な企業価値向上のための重要な経営課題と捉え、以下の基本的な考え方のもと、その充実に努めています。

当社グループ全体の企業価値向上のために、

- ① グループ各社に権限を委譲し、自立経営のもと事業の展開スピードをあげ、各社において企業価値向上を追求する。
- ② 会議体の定期的な運営等を通じ、各社の事業報告や今後の経営方針・事業戦略について意見交換しあえる風土を維持することで、グループ全体の企業価値向上を追求する。
- ③ 法令遵守の姿勢や倫理性を確保し、コンプライアンス体制を維持することで、グループ全体での企業の社会的責任を果たす。
- ④ オープンかつタイムリー、そして正確な情報開示を継続し、適時開示に対する社内体制を維持することで、経営の透明性を高める。

コーポレート・ガバナンス体制について

当社は監査役設置会社であり、2011年6月29日現在、監査役会は5名（うち3名は社外監査役）で構成されています。また、取締役会は10名で構成されており、うち1名は社外取締役です。

この体制下において、監査役監査に加え、株主を含むすべてのステークホルダーの視点に立脚する幅広い見識をもった独立性の高い社外取締役が、監査役会や内部統制担当役員と連携を図り業務執行の監査・監督に関与することで、経営に対する監督機能を強化しています。

また、持株会社として、グループ各社の独自性・自立性を維持しつつ、グループ全体の企業価値の最大化を図ることを目的に「グループ会社管理規程」を制定し、「グループ戦略会議」、「マザー協議連絡会議」、「タカラバイオ連絡会議」、「宝ヘルスケア戦略会議」、「機能子会社協議連絡会議」を通じて重要案件の事前協議や報告を義務付けるほか、特に急を要する事項や専門性の高い内容については、随時「経営会議」を開催して事前協議を行っています。

監査役監査、内部監査および会計監査について

当社の監査役は、取締役会等の重要会議への出席や業務・財産および重要書類の調査ならびに必要なに応じて担当取締役および担当者への聞き取り調査等を実施し、これらを通じて、取締役の職務執行の監査を行っています。内部監査については、被監査部門から独立した監査室を設置し、「内部監査規程」に基づく内部監査を実施して必要な対策を講じることにより、職務執行の適正確保に努めています。なお、監査室、監査役会および会計監査人は、監査計画・監査方針・監査実施状況に関して定期的に意見交換を行うほか、情報・意見交換、協議を行う等、相互連携を図っています。

コーポレート・ガバナンスに重要な影響を与える特別な事情 当社の上場子会社タカラバイオ株式会社について

2011年3月31日現在、当社は、タカラバイオ株式会社（東証マザーズ、コード番号4974）の議決権の70.8%を所有する親会社であり、当社と同社の関係は以下の通りです。

① 当社グループにおけるタカラバイオ株式会社の位置付け

タカラバイオ株式会社は、2002年4月1日に、物的分割の方法により当社の100%子会社として設立しました。その後、当社の議決権所有比率は、同社による第三者割当増資、公募増資、新株予約権付社債の発行等により、現在の議決権所有比率となっています。

2011年3月31日現在、当社グループは、純粋持株会社である当社、子会社37社および関連会社5社で構成され、その中でタカラバイオ株式会社はバイオテクノロジー専門の事業子会社として位置付け、当社グループとしてバイオ事業を推進しています。

② 当社のグループ会社管理について

タカラバイオ株式会社についても、前述の「グループ会社管理規程」を適用し、同社の取締役会において決議された事項等の報告を受けていますが、取締役会決議事項の事前承認等は求めておらず、同社が独自に事業運営を行っています。

また、「グループ戦略会議」、「タカラバイオ連絡会議」等の会議体では、タカラバイオ株式会社の代表取締役、役員、執行役員等の出席を求めています。これらの会議体は、グループ全体の方針についての討議や、グループ会社間での報告を目的としたものであり、同社の自主性・独立性を妨げるものではありません。

当社株券等の大規模な買付行為に対する対応方針 (買収防衛策) について

当社は、2006年5月15日の当社取締役会決議により、企業価値、ひいては、株主の皆様のご利益を確保し、又は向上させることを目的に、「当社株券等の大規模な買付行為に対する対応方針（買収防衛策）」を導入しました。

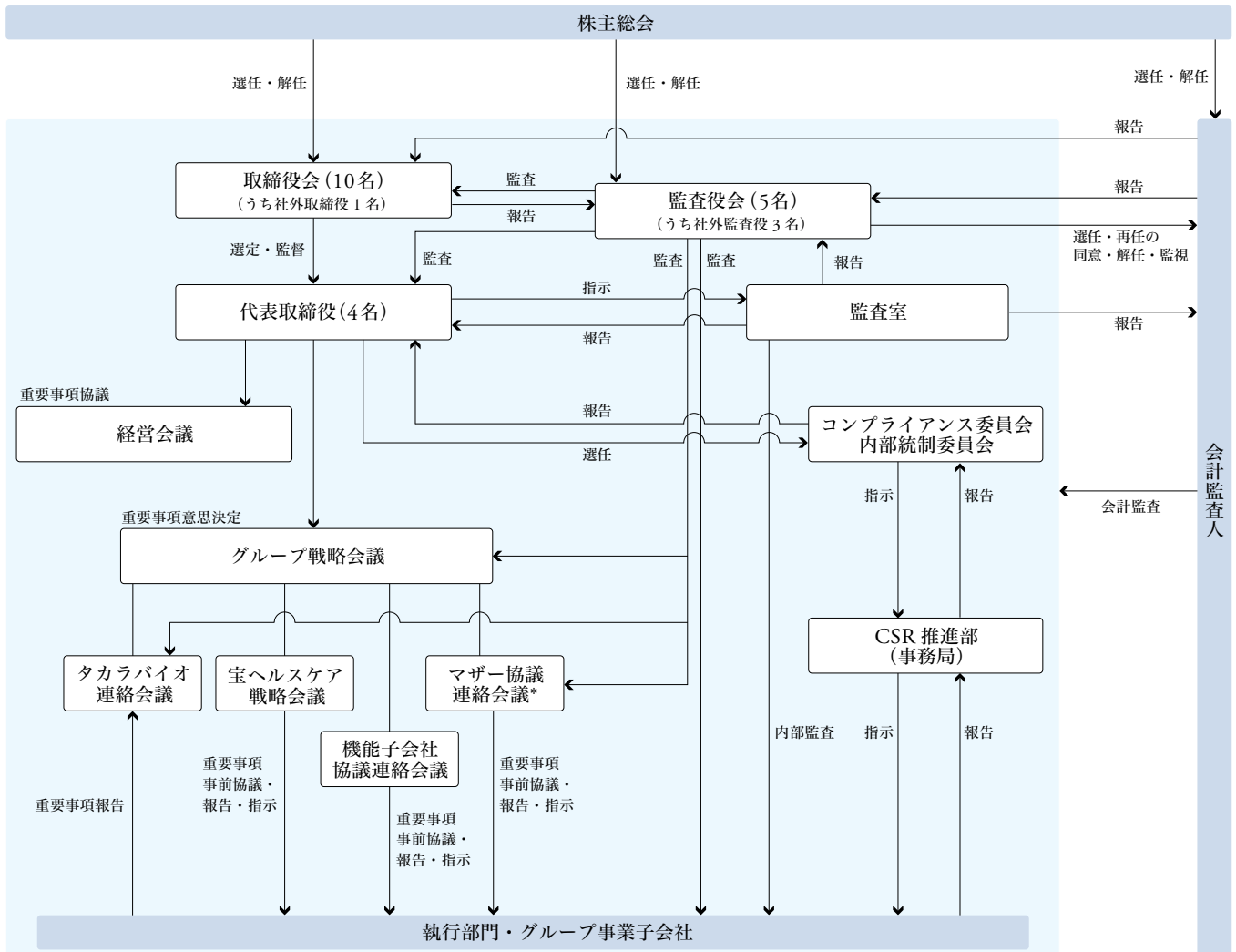
しかし、株主の皆様のご意思をより多く反映させることが株主の皆様のご利益の最大化に資するとの考えから、2007年5月15日開催の当社取締役会において、買収防衛策の導入を当社の株主総会にお諮りして株主の皆様のご決議に付すこと、および、対抗措置発動の判

断は、原則として当社の株主総会での決議をもって執り行うこと、といった内容を有する買収防衛策に変更することを決議しました。その内容につきましては、当社ホームページ (<http://www.takara.co.jp/>) 並びに有価証券報告書において概要を掲載しておりますのでご参照願います。

なお、2007年6月28日開催の当社第96回定時株主総会において、買収防衛策の導入が承認可決され、2010年6月29日開催の当社第99回定時株主総会において、その一部変更及び継続が承認可決されています。

コーポレート・ガバナンス体制 模式図

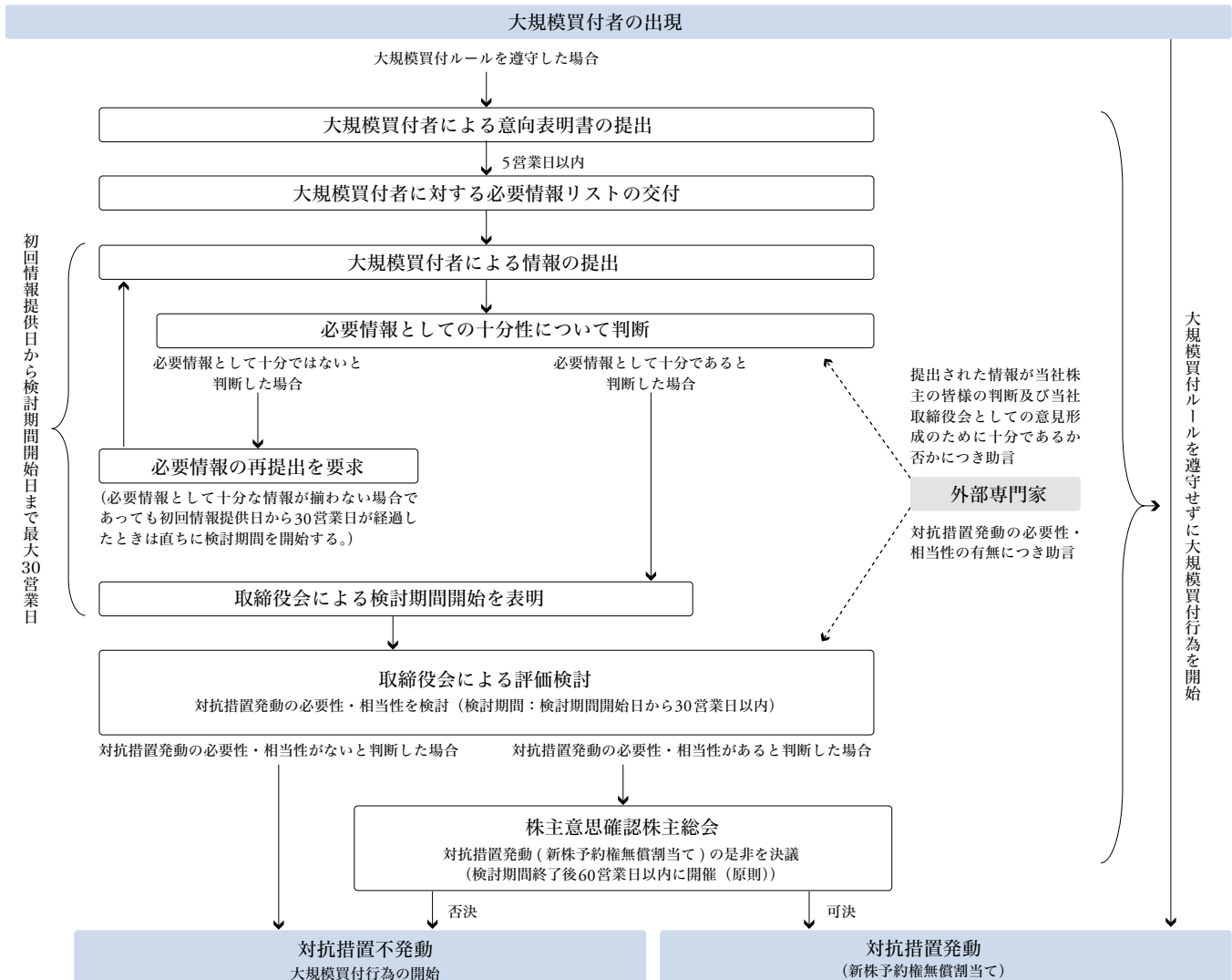
(2011年6月29日現在)



* マザー (宝酒造グループ) 協議連絡会議

大規模買付ルール

- 1 当社取締役会に対して、事前に大規模買付行為に関する必要十分な情報の提出
- 2 (a) すべての大規模買付者は、検討期間開始日から30営業日を上限とする当社取締役会による評価検討が終了するまでは、大規模買付行為を開始してはならない
- (b) 株主意識確認株主総会が開催される場合には、株主意識確認株主総会が終了するまで、大規模買付行為に着手してはならない



役員

2011年6月29日現在



後藤 功

宝ホールディングス株式会社 代表取締役会長
兼 宝酒造株式会社 代表取締役会長



大宮 久

宝ホールディングス株式会社 代表取締役社長
兼 宝酒造株式会社 代表取締役社長
兼 タカラバイオ株式会社 取締役会長



大宮 正

宝ホールディングス株式会社
代表取締役副社長
(経営企画・財務・経理・IR・CSR・
環境広報統括)
兼 宝酒造株式会社 代表取締役副社長



柿本 敏男

宝ホールディングス株式会社
代表取締役副社長
(総務人事・業務革新推進統括)
兼 宝酒造株式会社 代表取締役副社長



仲尾 功一

タカラバイオ株式会社 代表取締役社長
兼 宝ホールディングス株式会社 取締役

宝ホールディングス株式会社

取締役	矢野 雅晴 (CSR担当・環境広報担当 兼 宝酒造株式会社 常務取締役)
取締役	松崎 修一郎 (経営企画担当・財務担当・経理担当・IR担当 兼 宝酒造株式会社 専務取締役)
取締役	岡根 孝男 (総務人事担当・業務革新推進担当・総務人事部長 兼 宝酒造株式会社 取締役)
取締役	中尾 大輔 (兼 宝酒造株式会社 専務取締役)
取締役 (社外取締役)	植田 武彦 (兼 宝酒造株式会社 取締役)
常勤監査役	釜田 富雄
常勤監査役 (社外監査役)	半田 邦博
監査役	友村 秀夫
監査役 (社外監査役)	香川 孝三
監査役 (社外監査役)	北井 久美子

事業概要

宝酒造グループ

TaKaRaグループのコア事業である酒類・調味料事業の歴史は、1842(天保13)年までさかのぼります。以来160有余年にわたり、時代や消費者が求める価値観や嗜好に対して、常に独創的で確かな技術に裏づけられた安心できる商品を提供することを使命に活動を続けています。その商品カテゴリーは、焼酎、清酒、ソフトアルコール飲料、ワイン、ウイスキー、中国酒、調味料、原料用アルコールなど幅広く展開しており、また日本国内のみならず、米国、中国、欧州の子会社を通じて、グローバルな事業展開を行っています。

焼酎

長年培ってきた独自の技術によって、時代が求める焼酎を追求し市場を創造し続けてきました。甲類焼酎では、No.1ブランドの“宝焼酎”をはじめ、樽貯蔵熟成酒を3%ブレンドしたひとクラス上の“極上<宝焼酎>”、30年以上のロングセラーを続ける“宝焼酎「純」”などのブランドでトップシェアを堅持しています。本格焼酎では、芋100%にこだわった“全量芋焼酎「一刻者」”、麦本来の味わいを追求した“本格麦焼酎「知心剣」”など、様々な原料において品質にこだわった商品を発売・育成しています。



清酒

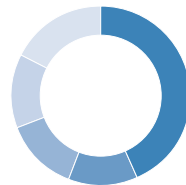
松竹梅は、「よるこびの清酒」として、慶祝・贈答市場におけるトップブランドの地位を確立しています。2001年には、伝統的な手造りの原理を再現した最新鋭の設備と人の手で行う酒造りの両方を併せもった松竹梅白壁蔵(神戸市東灘区)を完成させ、“松竹梅「白壁蔵」<生純米>”などの特定名称酒を生み出しています。また、晩酌市場では、コクがあってすっきり辛口の“松竹梅「天」”が、業務用市場では、爛で冴える辛口の“松竹梅「豪快」”が多くのお客様からご支持をいただいています。



ソフトアルコール飲料

1984年に日本初の缶入りチューハイとして衝撃的なデビューを飾った“タカラcanチューハイ”は、その後の缶チューハイ市場をリードし、今もそのこだわりの品質で多くのお客様からご支持をいただいています。また、強炭酸でキレ味爽快の辛口チューハイ

カテゴリー別売上構成比



■ 焼酎	43.6%
■ 清酒	12.5%
■ ソフトアルコール飲料	13.3%
■ 調味料	13.2%
■ その他	17.4%

“TaKaRa「焼酎ハイボール」”、「産地直搾り果汁」を使用し果汁感あふれる味わいの“タカラCANチューハイ「直搾り」”、沖縄産果実と泡盛を使用した“TaKaRa「琉球ハイボール」”など、様々な嗜好にお応えするこだわりの商品を開発・育成しています。



調味料

「お酒のチカラでもっとおいしく」をテーマに、本みりんのトップブランドとして日本の食文化を育んできた“タカラ本みりん”や、食塩無添加の料理清酒“タカラ「料理のための清酒」”など、料理をおいしく、食卓を豊かにする様々な酒類調味料をご提案しています。また、加工業務用市場に向けては、「京寶」ブランドをはじめとする、お惣菜や加工食品などに適した商品を取り揃えるとともに、食品分析やアルコールの調理効果研究、レシピ開発などお客様とともに様々な課題解決に取り組んでいます。



海外

おいしくヘルシーな食事として日本食が注目を浴び世界に広まるのに伴って、清酒やみりんも普及しており、現在欧米やアジアを中心に世界40カ国以上の国々で清酒「松竹梅」、タカラみりんをはじめとする宝製品が親しまれています。2010年には、欧州において日本食材卸事業に参入し、日本の食文化を世界中に広める取り組みを加速させています。またスコッチウイスキー、バーボンウイスキーの製造・販売にも取り組むなど、グローバルに事業を展開しています。



タカラバイオグループ

TaKaRa グループのバイオ事業の使命は、遺伝子治療などの革新的なバイオ技術の開発を通じて、人々の健康に貢献することです。その実現を担うタカラバイオグループでは、技術および収益の基盤である「遺伝子工学研究事業」で安定的な収益を稼ぎ出し、「医食品バイオ事業」を第2の収益事業へ育成し、「遺伝子医療事業」に経営資源を投入して遺伝子治療・細胞医療の商業化を目指しています。

遺伝子工学研究事業

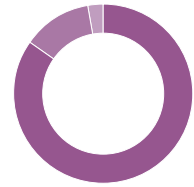
大学の基礎研究から創薬研究などの産業分野まで、世界中のバイオテクノロジー研究を支援しています。研究用試薬・理化学機器では、バイオテクノロジー研究の必須技術の一つであるPCR法について、前処理不要で生体サンプルから直接反応可能なPCR酵素、伸長性に優れた逆転写酵素などを全世界に提供し続けています。研究受託サービスでは、ゲノムの配列解析や次世代シーケンス技術を利用した高速シーケンス解析、iPS細胞受託作製サービスなどの先端技術サービスを提供しています。今後も、遺伝子工学研究用酵素やPCR関連技術などの遺伝子工学分野に加え、市場の拡大が見込まれる細胞生物学分野に注力して研究開発を行い、中国で製造したコスト競争力の高い製品群を全世界に販売し、グローバルマーケットにおける地位をさらに高めていきます。



医食品バイオ事業

日本古来の食品素材の機能性をバイオテクノロジーで解析し、それらの素材を活かした健康食品の開発・製造を行っています。また、キノコの生産販売やライセンス事業などを展開しています。健康食品事業では、ガゴメ昆布「フコイダン」、寒天由来「アガロオリゴ糖」、明日葉「カルコン」、キノコ「テルペン」、ヤマイモ「ヤムスゲニン®」、ボタンボウフウ「イソサミジン」などの機能性研究を行い、

カテゴリー別売上構成比



■ 遺伝子工学研究事業	84.8%
■ 医食品バイオ事業	12.6%
■ 遺伝子医療事業	2.6%

開発・製造した健康食品は宝ヘルスケア社を通じて販売しています。また、機能性食品素材を原料として提供するBtoBビジネスも行っています。キノコ事業では、JA全農長野などへブナシメジ菌株や大量生産技術のライセンスを行うほか、ハタケシメジやホンシメジの自社生産販売を行っています。また、キノコの栽培技術やゲノム解析技術などを活用し、高付加価値キノコの新規生産技術の開発を進めています。



遺伝子医療事業

遺伝子工学研究事業で培ったテクノロジーを利用して、遺伝子医療に必須となる中核技術の開発を行い、その商業化を進めています。中核技術の一つは、血球系細胞への高効率遺伝子導入を可能とする「レトロネクチン法」であり、体外遺伝子治療における遺伝子導入法のスタンダードとなっています。二つ目の中核技術は、生体内での生存能力が高く、抗原認識能も高いナイーブT細胞を多く含む細胞集団が大量に得られる「レトロネクチン拡大培養法」であり、遺伝子治療や細胞医療に用いられています。これらの技術を積極的に全世界にライセンスアウトすることで、技術の普及と収益の拡大を目指しています。また、自社プロジェクトとしても、がんやエイズなどを対象にした遺伝子治療や細胞医療の臨床開発を進めるほか、がん免疫細胞療法に関する支援事業として、医療機関に対する細胞加工技術支援サービスや、細胞培養用培地・バッグの販売などを行っています。



宝ヘルスケア

宝ヘルスケアは、TaKaRaグループの持つ独自素材や技術を活かした安心・安全な健康食品を、お客様へ直接お届けするダイレクトマーケティングを通じて、人々の健康で生き生きとした生活を応援しています。TaKaRaグループでは、タカラバイオグループで研究された機能性素材を活用した健康食品を、宝酒造グループのマーケティング・ノウハウを持つ宝ヘルスケアを通じて販売することで、シナジーを追求し、健康食品事業の成長を加速させています。

主要子会社データ

2011年3月31日現在

会社名	所在地	資本金	議決権の所有割合	主な事業内容
宝酒造株式会社	〒600-8688 京都府京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20 TEL 075-241-5110【お客様相談室】TEL 075-241-5111	1,000百万円	100.0%	酒類、調味料、原料用アルコールの製造・販売

宝酒造株式会社の連結子会社

タカラ物流システム株式会社	〒610-0343 京都府京田辺市大住浜55-13 TEL 0774-68-1720	50百万円	(100.0%)	運送業、倉庫業、自動車整備業、損害保険代理業、旅行業等
長運株式会社	〒850-0058 長崎県長崎市尾上町1-16 TEL 095-823-0161	250百万円	(100.0%)	運送業、通関業、倉庫業等
小牧醸造株式会社	〒895-1816 鹿児島県薩摩郡さつま町時吉12 TEL 0996-53-0001	16百万円	(50.0%)	焼酎の製造・販売
株式会社ラック・コーポレーション	〒107-0052 東京都港区赤坂5-2-39 TEL 03-3586-7501	80百万円	(100.0%)	ワイン輸入販売
タカラ物産株式会社	〒612-8338 京都府京都市伏見区舞台町9 TEL 075-601-6267	10百万円	(100.0%)	飼料販売
タカラ容器株式会社	〒612-8061 京都府京都市伏見区竹中町609 TEL 075-605-4540	30百万円	(100.0%)	容器卸売業
株式会社トータルマネジメントビジネス	〒612-8061 京都府京都市伏見区竹中町609 TEL 075-623-2660	20百万円	(100.0%)	広告代理業、マーケティングに関する調査、販促企画、人材派遣事業、飲食店経営
Takara Sake USA Inc. (米国)	708 Addison St., Berkeley, CA 94710, U.S.A. TEL 510-540-8250	7,000千ドル	(90.0%)	酒類製造・販売
Age International, Inc. (米国)	229 W.Main St., Frankfort, KY 40602, U.S.A. TEL 502-223-9874	250千ドル	(100.0%)	バーボンウイスキーの販売
The Tomatin Distillery Co., Ltd. (英国)	Tomatin, Inverness-shire, IV13 7YT Scotland, U.K. TEL 1463-248-148	3,297千ポンド	(80.6%)	スコッチウイスキーの製造・販売
宝酒造食品有限公司 (中国) (英文名: Takara Shuzo Foods Co.,Ltd.)	506 Room, Huatengbeitang Commercial Tallbuilding No.37 Nanmofang Road, Chaoyang District, Beijing, China 100022 TEL 010-5190-0975	130,000千元	(62.0%)	酒類、調味料、原料用アルコールの製造・販売、宝酒造グループ製品の輸入販売
上海宝酒造貿易有限公司 (中国) (英文名: Shanghai Takara Shuzo International Trading Co.,Ltd.)	Room 19J, Li Du Xin Gui, No.831 Xin zha Road, Shanghai, China 200010 TEL 021-6218-1383	4,896千元	(100.0%)	宝酒造グループ製品の輸入販売、中国優良製品の輸出
FOODEX S.A.S. (仏国)	4, impasse des Carrières 75016 Paris, France TEL 01-46-47-44-39	250千ユーロ	(80.0%)	酒類・食品・調味料等の輸入・卸売業

タカラバイオ株式会社	〒520-2193 滋賀県大津市瀬田3-4-1 TEL 077-543-7212	9,068百万円	70.8%	研究用試薬、理化学機器の製造・販売、研究受託サービス、遺伝子治療・細胞医療の商業化、健康志向食品、キノコの製造・販売
------------	---	----------	-------	--

タカラバイオ株式会社の連結子会社

瑞穂農林株式会社	〒622-0313 京都府船井郡京丹波町保井谷三ツ枝38	10百万円	(49.0%)	キノコ類の生産、販売
有限会社タカラバイオファーマリングセンター	〒899-7306 鹿児島県曽於郡大崎町永吉4217	3百万円	(48.3%)	農産物・林産物の生産、加工並びに販売
株式会社きのごセンター 金武	〒904-1201 沖縄県国頭郡金武町字金武9006	5百万円	(49.0%)	キノコ類の生産、販売
宝生物工程(大連)有限公司 (中国)	No.19 Dongbei 2nd Street, Development Zone, Dalian, China 116600	2,350百万円	(100.0%)	研究用試薬の製造・販売および研究受託サービス
Takara Bio Europe S.A.S. (仏国)	2, avenue du president Kennedy, 78100 St Germain en Laye, France	600千ユーロ	(100.0%)	研究用試薬の販売
Takara Korea Biomedical Inc. (韓国)	Lotte New T Castle 601, 429-1, Gasan-dong, Gumchun-gu, Seoul, 153-803, Korea	3,860百万ウォン	(100.0%)	研究用試薬・理化学機器の販売、研究受託サービス
宝日医生物技術(北京)有限公司 (中国)	Life Science Park, 22 KeXueYuan Road Changping District, Beijing, China 102206	1,030百万円	(100.0%)	研究用試薬、理化学機器、培地の販売
Takara Bio USA Holdings Inc. (米国)	1290 Terra Bella Avenue, Mountain View, CA 94043, U.S.A.	70,857千ドル	(100.0%)	持株会社
Clontech Laboratories, Inc. (米国)	1290 Terra Bella Avenue, Mountain View, CA 94043, U.S.A.	83千ドル	(100.0%)	研究用試薬の開発・製造・販売
DSS Takara Bio India Pvt. Ltd. (インド) ※2011年6月子会社化	A-5 Mohan Co-op Industrial Estate, Mathura Road, New Delhi, 110044, India	45百万ルピー	(51.0%)	研究用試薬の製造・販売、理化学機器の販売

宝ホールディングス株式会社の連結子会社

宝ヘルスケア株式会社	〒604-8166 京都府京都市中京区三条通烏丸西入御倉町85-1 TEL 075-229-6901	90百万円	100.0%	健康食品の製品開発・販売
大平印刷株式会社	〒600-8881 京都府京都市下京区西七条掛越町55 TEL 075-313-7141	90百万円	100.0%	印刷業
宝ネットワークシステム株式会社	〒600-8688 京都府京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20 TEL 075-241-5139	30百万円	100.0%	情報システム開発・運用・管理
川東商事株式会社	〒612-8338 京都府京都市伏見区舞台町9 TEL 075-601-5211	30百万円	100.0%	酒類販売、不動産賃貸

(注) 議決権の所有割合の括弧書きは間接所有割合

投資家情報

2011年3月31日現在

商号	宝ホールディングス株式会社	設立	1925年9月6日
事業内容	持株会社	資本金	13,226百万円
本店所在地	京都市下京区四条通烏丸東入 長刀鉾町20番地	代表者	代表取締役社長 大宮 久
電話	075-241-5130	ホームページアドレス	http://www.takara.co.jp/

株主メモ

発行株式	
発行可能株式総数	870,000,000株
発行済株式総数	217,699,743株
株主数	30,770名
上場取引所	東証1部、大証1部
証券コード	2531
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務連絡先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話0120-288-324 (フリーダイヤル)
株主総会	定時株主総会は、毎年6月に京都で開催 されています。その他、必要のある場合には 少なくとも2週間の事前通告をもって、 臨時株主総会が開かれる場合があります。
独立監査人	有限責任監査法人トーマツ

大株主(上位10名)

氏名又は名称	所有株式数 (千株)	所有株式数の 割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,890	4.54
株式会社みずほコーポレート銀行	9,738	4.47
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	9,518	4.37
農林中央金庫	9,500	4.36
明治安田生命保険相互会社	5,370	2.47
株式会社京都銀行	5,000	2.30
JPモルガン証券株式会社	3,779	1.74
国分株式会社	3,489	1.60
日本アルコール販売株式会社	3,000	1.38
宝グループ社員持株会	2,765	1.27

(注) 1. 所有株式数の千株未満は切り捨てております。
2. 上記のほか、当社は自己株式を9,777,206株(所有株式数の割合は4.49%)
保有しております。

所有者別株式分布状況

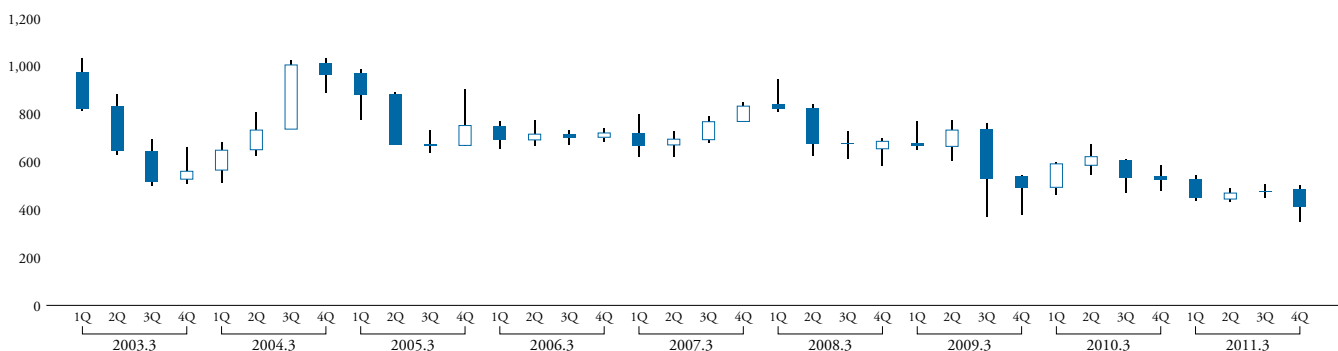



金融機関	38.03%
証券会社	3.61%
その他の国内法人	16.96%
外国法人等	8.64%
個人その他	28.27%
その他	4.50%

格付

格付機関	長期格付	短期格付
格付投資情報センター(R&I)	A / 安定的	a-1
日本格付研究所(JCR)	A / 安定的	J-1

株価の推移 (円)



 宝ホールディングス株式会社

京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20番地

Phone: (075) 241-5130

www.takara.co.jp



この用紙費用の一部は『日本赤十字社』に寄付されております。
この印刷物は環境に配慮し、植物油インキ・水なしオフセット印刷で制作しております。
この印刷物は京都エコポイントモデル事業でカーボンオフセットされた電力を使用して印刷しております。